

阪神大震災復興とBW優勝の経済効果

1997年12月24日提出

序 テーマについて

まずなぜこのテーマを選んだかについて簡単に触れておきたい。

自分がオリックスのファンだったのもあるが、1995年に読んだ、地元の1プロ球団の優勝が、大きな経済効果をよぶという新聞記事に大変興味を持ったからである。このことをもとに、スポーツが経済に与える影響についても考えてみようとするものである。そしてスポーツが与える経済効果について述べようと思ったのである。

このようなわけでこのようなテーマになったのである。

1 平成7年兵庫県南部地震の概要 (1)

平成7年1月17日未明に阪神・淡路地域を襲った「兵庫県南部地震」は、日本で初めての近代的な大都市における直下型地震であり、大きな破壊力をもって、未曾有の被害をもたらした。

- (1) **発生日時** 平成7年1月17日午前5時46分
- (2) **震源** 淡路島(北緯34°36' 東経135°03')
- (3) **震源深さ** 約14km
- (4) **規模** マグニチュード7.2
- (5) **震度** 震度6(一部地域で震度7)
- (6) **特徴** 横揺れと縦揺れが同時に発生

以上が兵庫県南部地震の概要である。

2 阪神大震災の被害

1995年1月17日に起きた阪神大震災の被害についてふれておきたい。

死者6000人以上に上り被害額はGDP(名目国内総生産)の2%に達し、(2)建築物・設備のストック震災での被害は9兆9000億円にも上り(3)うち、商工部門だけでも2兆5000億円以上にもなった。(4)

ここでは特に今回の主テーマである神戸市の被害について、述べようと思う。ここでは、神戸市各区の人的物的被害の表をあげることにする。(p10表1・2)このように多くの人が亡くなり、家も失ったのである。

またライフラインの被害は次のとおりである。(5)

電気	市内全域停止
ガス	市内80%停止
水道	市内約半数停止

電話 約 25%停止
下水道 ポンプ場の破損および処理場の機能停止
クリーンセンター 全クリーンセンターの運転停止
その他の被害についてもまとめておくことにする。
製造業 アパレル 神戸ファッションアソシエーション加盟 49 社中、本社ビルの全半壊は 6 社だった。本社が被害の少ないポートピアランドに多かったためである。被害は比較的小さかったがブランドイメージの低下が販売に大きく影響したのである。(7)

ケミカルシューズ

長田区を中心に約 80%の工場が全半焼するなど壊滅的な被害を、受けた。8月に 98%生産再開するも生産量は 50%程度にとどまっていたのである。(8)

酒造 全国シェア約 3 割の灘五郎 51 社すべてに被害が出、8月に 1 社が廃業、役半数の企業に酒蔵全半壊の被害が出たのである。大手中心に前年並みに生産が戻るが、酒造年度平成 6 年 7 月から、7 年 6 月までの生産量は、前酒造年度比 75%にとどまった。(9)

小売り デパート 阪急三ノ宮駅が半壊し、3 階以降の阪急百貨店三宮店を取り壊した。神戸での営業はハーバーランドの神戸阪急に移された。その他大丸・そごうでも売場面積が 1 / 3 に縮小される被害を受けた。その他スーパーのダイエーでも 6 店舗閉鎖、4 店舗営業中止の被害を受け、被害額は 500 億円にも、上ったのである。(9)

商店街 約 1 / 3 が全損状態となったのである。(10)

小売市場 約 1 / 2 が全損状態となったのである。(11)

観光 観光 平成 7 年 8 月 15 日現在観光施設は 106 施設 77%が営業再開するも被災地に対する遠慮などから稼働率は 30 - 40%と低迷したのである。宿泊施設も 80%営業再開するも客室稼働率は 50%程度にとどまるなど厳しい状態であった。(12)

港湾 被害は 1 兆 500 億円にも上り、全 239 パースのうち 230 パースに被害が出、コンテナパース 36 のうち、97 年夏に、再開していたのは、10 パースにとどまっていた。(13)

そこで、その10バースで、365日24時間体制で、必死の呼び戻しが行われるも、輸出入の貿易額、入港数、貨物取扱量は、1995年7月現在で、前年比60 - 75%にとどまった。この主因は、人件費が安い外国に多くの貨物を奪われたことにあったことは言うまでもない。(14)

平成9年3月から4月のコンテナ貨物取扱量は、震災前の84%に、輸出入の貿易額は、94%外国船入港数は80%まで回復した。(15)

学校園 80%が被災、長い間避難所として教室・体育館が使われた。そのため、校舎が全半壊していなくても多くの学校で、授業に影響が出たのである。(16)

交通 道路 阪神高速神戸線が一部区間でなぎ倒しになるなど、大きな被害が出た。湾岸線も不通となり阪神間を結ぶ高速網は麻痺し阪神地区だけでなく、日本経済に大きな影響を与えた。

鉄道 阪神間を結ぶJR・阪急・阪神が長期にわたり一部区間で不通となる。もしくは開通後も仮駅舎で営業されている阪急伊丹駅のように、一時閉鎖される駅もあり、乗降客・売り上げ減(p11.12表3.4.6.7)など、大きな被害を受けたのである。

このようにこの震災は神戸の街に大きな被害をもたらしたのである。

2 不況の中での復興

神戸経済復興を厳しいものにしたのは、戦後最大の不況下で国も地方自治体も税収が減っている中で震災がおこったからである。

被害が約10兆円にものぼったが、(18) その年の県と市の予算が、復興予算を上乗せしたにもかかわらず、それぞれ2兆5000億円にとどまっているのである。震災により神戸地区でのフローの損失が2兆6000億円生まれたが、その額にも及ばないのである。(19) 復興した工場の商品の不況による買い控え、円高による輸入の増加、輸出の減少による販売落ち込み、それに加え人口の流出による阪神地区での納税額の減少も復興予算に影響するものであった。

またもう1つの要因は、国と阪神地域との温度差であったといえる。確かに、平成6年度2時補正、7年度補正あわせて、2兆5千億円の予算が組まれたが、復興に十分な金額とはとてもいえるものではなかった。地元の住民や代議士が予算要求を行ったが、「阪神淡路は焼け太りする」(20)といった代議士や中央省庁の役人もいたという。現在でも実際

に公的資金による、阪神大震災にさかのぼっての被災者援助法案が、国会に提出されているが、審議が進んでいないのが現状である。不況、震災、金融不安で税収が落ち込んでいくという問題もあったが、それ以上に、国と地元の温度差が大きいのが主要因であるところのことからも証明できる。

税収の減少や国の政策の後れ、平成の大不況により復興への道は険しいものとなったのである。

3 オリックスブルーウェーブについて

このテーマのもう1つの核になるオリックスブルーウェーブについてふれておきたい。このチームは昔阪急ブレ・ブスと呼ばれ、阪急西宮スタジアムを本拠地にしていて、1988年(21)に当時のオリエンティス（現オリックス）に譲渡された。その後、1990年に本拠地をグリーンスタジアム神戸に移し、その年にオリックスブルーウェーブと改名したのである。そしてしばらくは人気もなかったが、1994年に仰木監督のもと、200本安打で一躍球界のスーパースターとなったイチローの登場から、状況が一変したのである。当時は、神戸のチームと言うより完全に、イチローのチームだった。もちろん今もその状況に大きな変化はない。そして、1995年の優勝、1996年の日本一で、パリーグを代表するチームになったのである。

これが、オリックスブルーウェーブの簡単な歴史である。

4 神戸市とオリックスの関係

震災の年のリーグ優勝で本当の意味で市民球団と認められたオリックスだが、チームと神戸市の関係についてふれておきたい。

オリックスは、神戸市に大きな経済効果をもたらしているのである。

1番大きなものはグリーンスタジアム神戸の使用料である。この球場は、1985年ユニバーシアード神戸大会の時に作られた市営球場で、オリックスは市にレンタル料を1日105600円(22)払っているのである。年間オープン戦、公式戦などで年間80日以上使っている。またこの球場の特徴は、広大な駐車場（市営）を持ち、公共交通機関の足が市営地下鉄しかないことである。というようなわけで、この球場に来る人々の大部分は、神戸市に駐車料や、地下鉄の運賃を支払わなければならないのである。駐車1回500円、バス1台駐車2000円、(23)地下鉄三宮 - 総合運動公園往復600円、売店の売り上げ、すべてが神戸市にはいるのである。

このようにオリックスは神戸市に直接大きな経済効果をもたらしているのである。

5 BW優勝の経済効果 1

まずここでは経済効果の直接的なものをあげることにする。

優勝による日本シリーズや観客数の増加である。公式戦の観客動員が、94年の約140万人から約165万人(24)に増加し、日本シリーズなどを合わせ170万以上の人が球場を訪れた。この年の、神戸のサービス・観光部門の回復率が、被災地や被災者にたいする遠慮や交通の足がないなどが原因で、前年同月比30 - 40%にとどまっていた中(25)での、約20%増加という数字は、驚異的なものである。日本シリーズ入場料を含めた観客動員増で、約26億円もの波及効果があらわれたのである(26)。確かにその金は神戸市に直接入るものではないが、神戸市に直接はいる地下鉄(表3-7)、売店、駐車場料金の増加試算だけでも数億円に上るのである。また170万人をうわまわるという数字は、1993年の球場を含む西北神観光群を訪れた164万人をうわまわるという大変大きな数字である。(27)優勝直前、日本シリーズ期間は、大変多くのマスコミ関係者も神戸を訪れている。震災後観光客の激減で客室稼働率が50%に下がり(95年5-7月)(28)観光施設とともに、営業すれば、赤字が膨らんでいたホテルなどにも効果的に作用した。

観光産業が落ち込んでいた神戸にとっては大変大きな効果をもたらしたのである。

6 BW優勝の経済効果 2

ここでは、商業関係の効果について考えることにする。

この一番大きなものは、優勝記念のバーゲンだろう。

優勝記念バーゲンの売り上げ93億円、この試算は日本シリーズ優勝を仮定しているのだが、実際にはリーグ優勝のみだったので40億円程度である。(29)その当時の復興状況は、震災により約1/3が全損した商店街(10)、1/2が全損した小売り市場(11)のなかで、7月までに営業再開できたものが、2/3弱(内9%は仮設)にとどまっていた。(30)再開しても人口の流出、遠方からの買い物客がなくなるなどで、回復しつつはあっても経営が苦しかった。(31)

また、スーパー、デパートでも、店舗、売り場面積縮小で5月売り上げが、デパートで前年比-45%、スーパーで前年比-6%という(デパート7月は前年度比-33%神戸市内)状況下で、(32)オリックスとパリーグで戦うダイエーを含めた神戸中がバーゲンをしたことは非常に大きい。

またバーゲンで各店舗や商店街が人であふれ活気づき、店主たちにも苦しい時期を忘れさせ、商売に前向きにさせたというお金では現せない効果が大変大きかったのである。

7 BW優勝の経済効果3

最後は復興アピールというのがふさわしいものである。

95年優勝当時は、グリーンスタジアムの周辺には仮設住宅があり復興というにはまだほどとおかったが、大入りのグリーンスタジアムの映像や、優勝が決まったときのハーバーランドや南京町、生田神社の熱狂ぶりは、観光、アパレル・ケミカルシューズなどブランド都市神戸が、復興したという印象づけに最高であった。確かに騒いでいたのは、イチローファンなどごく一部に過ぎないし、すべてが神戸の人だったわけでもない。野球が嫌いな人や、そんなことで騒いでいられない人のほうが多かったのが現実であったろう。しかし、9月17日に優勝が決まらず残念がる人々の姿や、19日に、各ニュース番組のトップで報じられた優勝が決まり喜ぶ人々や、また中華街や商店街で嬉しそうにバーゲンを開く、店主の姿を多くのマスコミが報じたことによって、震災で暗いイメージの報道しか発進されなかった神戸から、明るいニュースが発進されたことが、神戸復興への大きなアピールになったのである。一例を挙げると、日本経済新聞が、9月20日の夕刊大阪社会面で、オリックス優勝神戸に広がる‘Vの波’というみだしで、被害の大きかった板宿や長田の菅原市場の店主や買い物客の声が掲載されている。(32)観光立都を目指す神戸にとっても観光地復活へのきっかけにもなった。

95年のリーグ優勝は、“Welcome to Kobe & Buy Kobe's” <ヒト集めカネ集めの推進>には様々大きな効果をもたらしたのである。そして神戸の復興に大きな貢献をしたのである。(33)

8 まとめ

最後にまとめとして述べる。

このように調べた結果オリックスの経済効果は金額的には大きなものだが、阪神大震災の被害額や、神戸の経済の規模からすると大変小さなものである。しかし、心理面では、大変大きな効果があり、復興への希望を与えたのである。その理由としては、1995年の流行語大賞にユニホームの肩口に縫われていたがんばろう神戸という言葉が選ばれたということからも証明できるであろう。

またスポーツの与える経済効果という意味では、流行語大賞もそれに含まれるが、それを報道するマスコミと一体化できるという点が大きいのではないかと、このことを調べるきっかけもそうであったように、とりわけ、マスコミのということが絶対というマスコミ信仰がある日本で、経済効果があると報道されることが大きいのであり、明るいイメージが伝わるということが大きいのである。ここでは、マスコミ信仰の例として次の記事をあげておく。

日本人30代の男性の87%が、マスコミが発進するインターネットの内容を信用するという記事がサンケイ新聞に掲載された。(34)マスコミが発表というだけでこれほど多くの

人がその情報を信じるのである。これは十分に日本人のマスコミ信仰を十分に証明するに足りるのではないだろうか。

最後に結論として、港町神戸、ファッションの街、また神戸ブランドといわれる商品など神戸を一言で言うとイメージの街である。その神戸が震災によって大きく損なわれたイメージを、震災の年に始まり今年も多くの観光客でにぎわっているルミネリエとともに、神戸復興の象徴として、希望、また街に活気を取り戻すことによりマイナスのイメージを振り払ったのが、一番大きな効果だったのである。

出典

- (1)神戸市インターネットホームページ「平成7年兵庫県南部地震の概要」より
- (2)平成7年度版『経済白書』より(3)(4)(18)『神戸経済復興の基本戦略』 新野幸次郎 都市政策81P, 3 1995 (5)(16)神戸市インターネットホームページ「神戸市の被災状況」より(6) - (14)『阪神大震災の神戸経済への影響』三木徹也 都市政策81P, 33 - 35 1995「各産業の現状と復興への課題」より(15) 神戸市インターネットホームページ「神戸港の港勢の回復状況」より (19)前掲『阪神大震災の神戸経済への影響』P, 39より(20)『神戸経済復興への提言』遠藤勝祐 都市政策81P, 22 1995(21)(23)『1996 オリックスエアブック』より(22)1998 ビア関西スタジアム ホールガイドより(24)(28) 前掲『阪神大震災の神戸経済への影響』p35(25)『96 プロ野球選手名鑑』 日刊スポーツ新聞社より (26) (29) 1995『三和総研オリックス優勝試算』 朝日新聞 1995, 9, 8 13面(27)『観光立都の可能性』 石森秀三 都市政策81P, 63 1995(30)(31)『阪神大震災の神戸経済への影響』 三木徹也 都市政策81P, 37 1995(32)『神戸経済復興の方策』 辻雄史 都市政策81P, 26 1995(33)『オリックス優勝神戸に広がる‘Vの波’』日本経済新聞夕刊大阪社会面1995 9 20(34) サンケイ新聞 1997 12 20 22面より

参考文献

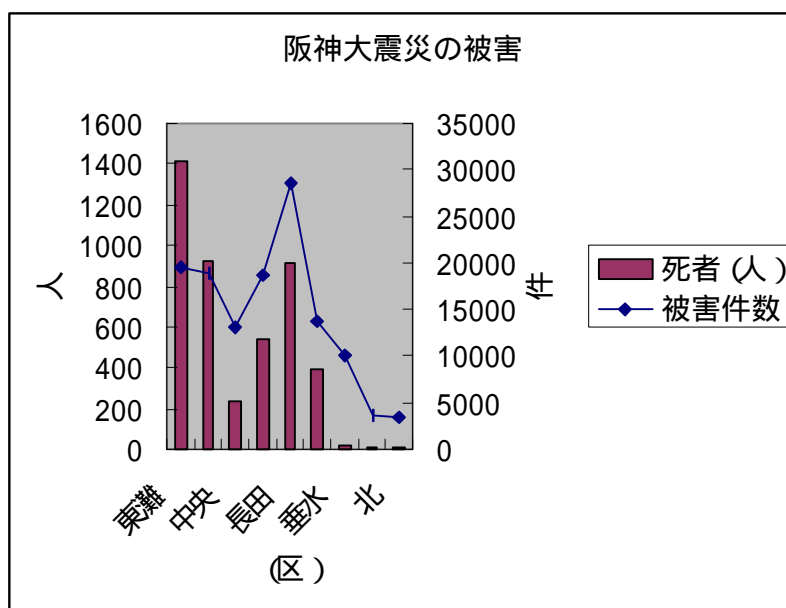
- 『神戸経済復興の基本戦略』 新野幸次郎 都市政策81 1995
『阪神大震災の神戸経済への影響』三木徹也 都市政策81 1995
『神戸経済復興への提言』遠藤勝祐 都市政策81 1995
『観光立都の可能性』石森秀三 都市政策81 1995
『神戸経済復興の方策』辻雄史 都市政策81 1995

最後にここまでに資料として使用した表を掲載する。

表1 阪神大震災の人的・物的被害

阪神大震災の人的・物的被害										
	東灘	灘	中央	兵庫	長田	須磨	垂水	西	北	合計
死者(人)	1416	924	239	544	911	393	18	10	12	4512
ピーク時の避難所数(箇所)	120	74	90	96	79	69	41	16	29	599
ピーク時の避難者数(人)	65859	40394	39090	26300	55641	21728	4747	1787	2360	236899
全焼(棟)	334	466	67	940	4759	407	1	0	1	6975
半焼(棟)	15	2	17	15	13	9	2	0	0	73
部分焼(棟)	18	93	22	46	61	20	5	1	2	268
全壊(棟)	13687	12757	6344	9533	15521	7696	1176	436	271	67420
半壊(棟)	5538	5675	6641	8109	8282	5608	8890	3262	3140	55145

表2 表1のグラフ



注 被害件数は全焼 半焼 部分焼 全壊 半壊の合計

表3 神戸被災地周辺私鉄利用客数(1000人)

	平成3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
阪急電鉄	814588	795582	789369	758495	729266
阪神電鉄	249003	246064	240075	229368	206290
山陽電鉄	105697	106174	104938	95505	79814
神戸高速	87272	87964	86409	74711	46266
神戸新交通	24895	27912	29558	22785	19379
神戸市営地下鉄	89965	92555	94743	88634	104966
北神急行	8514	8964	9077	9686	12486

表4 表3のグラフ

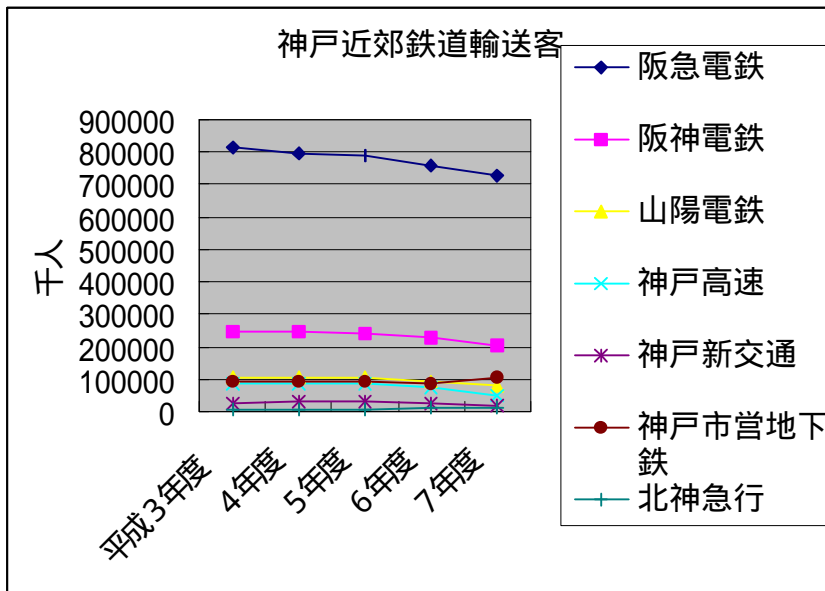


表5 神戸市営地下鉄の利用客

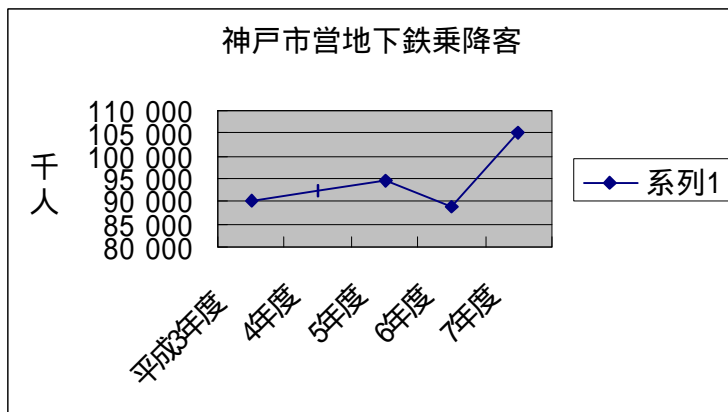


表6 神戸被災地周辺私鉄運賃収入 (1000円)

	平成3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
阪急電鉄	97 087 570	106 110 942	106 469 800	103 558 133	106 705 974
阪神電鉄	27 578 504	30 483 584	30 089 008	28 943 551	28 200 956
山陽電鉄	16 723 244	17 124 914	17 178 935	15 886 674	14 501 743
神戸高速	4 026 497	4 442 061	4 874 064	4 394 955	1 875 884
神戸新交通	4 423 230	4 868 932	5 121 934	4 212 803	3 697 243
神戸市営地下鉄	15 676 877	17 323 763	18 128 579	17 230 917	20 096 712
北神急行	2 262 866	2 448 856	2 553 579	2 895 936	3 705 752

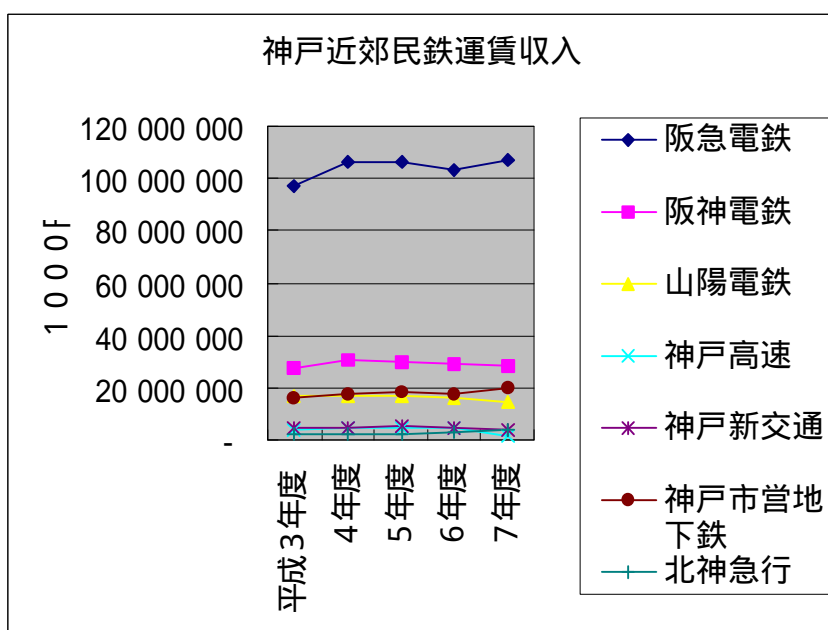


表7 表6のグラフ

表の出展 表1・2 インターネット神戸市ホームページより

表3・7 インターネット兵庫県ホームページより